

あした天気になあれ♪

～男も女も暮らしやすく～

連載第1回

あなたは男女共同参画という言葉を知っていますか？

男女共同参画社会とは、「男女が互いに人権を尊重しつつ、喜びも責任も分かち合い、個性と能力を發揮することができる社会」をいいます。

固定的な役割分担意識（男だから・・・女だから・・・）にとらわれず、市民一人ひとりがその人らしくいきいきと暮らせるように社会の制度や慣行のあり方を見直す必要があります。

むかし、むかしあるところにおばあさんとおじいさんがおったそうなの。おじいさんは山へしば刈りに、おばあさんは川へ洗濯に・・・

いえいえ、おばあさんはある時こんな事を言いました。

おばあさん：「なんでいつも、女は家事や赤ん坊の面倒なんじゃ？」

「私だって山へしば刈りに行ってみてえ」

おじいさん：「そんなこと言ったって、昔から男は外で働き、女は家を守ると決まっとるじゃろ」

おばあさん：「そんなこと誰が決めたんじゃ？」

「誰がやってもいいじゃろう。やりたい者がやりゃあええ」

おじいさん：「そんなら、一遍やってみい（どうせすぐえらいって言うに決まっとるで）」

ところが、おばあさんは山仕事が楽しくてしょうがありません。さっさと済ませて山を下りてみると、おじいさんはまだ川で洗濯をしていました。川の水は冷たくて長いことつかってられません。手がかじかんで洗濯物を絞るのもやっとなりました。

おじいさん：「おばあさんはこんな大変なことを毎日やっとなんか。ちいと、助けたらんとあかんな～」おじいさんはそう思いました。

おばあさん：「おじいさん、手が冷たかったじゃろ。ありがたうな。」

おじいさん：「そうじゃな。洗濯がこうも大変やったなんて初めて知ったわ。

これからは、できる者がやったらええな」

（原作：奥山和弘「モモタロー・ノー・リターン」十月舎）

誰もが一度は耳にしたことのある昔話の一説。

そう言われれば、なぜいつも、おじいさんは山仕事でおばあさんは洗濯と決まっているのでしょうか？

第14回出生動向基本調査（2011年）によると、男性がパートナーに望む職業形態は、専業主婦に代わって仕事と家庭の両立が増えています。女性も同じ意向が見られます。また、結婚相手に求める条件として、結婚する意思のある未婚者の男女とも「人柄」を重視する人が最も多いが、「家事・育児の能力」「自分の仕事への理解」も大多数の未婚者が重視しています。

「男は外で働き、女は家で子育て、家事、介護」という固定的役割分担意識にとらわれず、女性も外で働いたり、役員を引き受けたり、男性が家で料理をしたり、夫婦で共に子育てや介護に取り組んでみるのも悪くない気がします。やってみれば、意外と楽しいことがあるもの。助け合うからこそ、お互いの大変さがわかり、労る気持ちが生まれるのかもしれない。

ただ、慣れないことは最初からうまくいくばかりではありません。「ありがとう」という魔法の言葉を忘れないでくださいね。

企画財政課 電話 22-6825